

DFree 活用方法紹介

Diaper Free: おむつフリー
(なるべくオムツに頼らずに生活する)

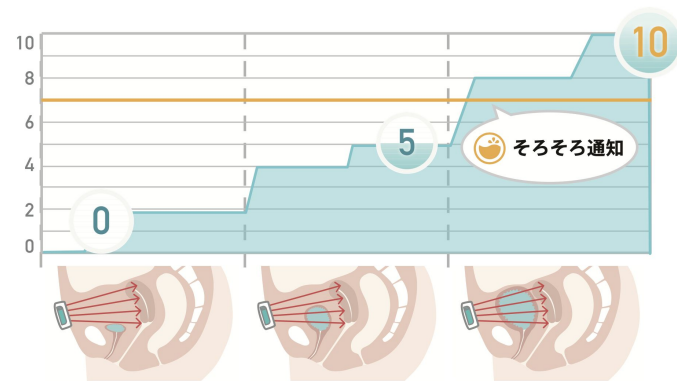
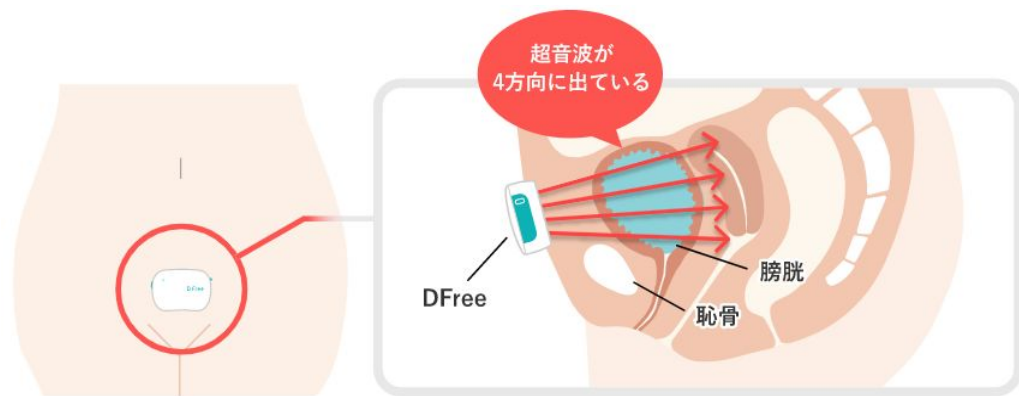


排尿のタイミングを **事前**にお知らせすることで、 トイレでの排尿成功をサポートする **排泄予測支援機器**



どうやって、排尿を予測しているのか？

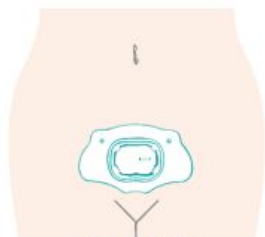
- 1 4つの超音波センサーで膀胱を常時モニタリング
- 2 尿のたまり具合を 10段階で数値化している
- 3 設定した数値に達するとそろそろ通知でお知らせ



通知が鳴ったタイミングでトイレに行く

そろそろ通知をもとにトイレに行くことで、排尿成功が可能となります！

「そろそろ通知」を活用した基本の流れ



DFree装着



尿がたまる



そろそろ通知

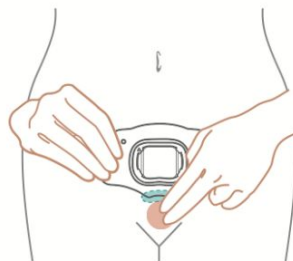


トイレ/介助

膀胱の位置に「DFreeを正しく装着すること」が重要です！



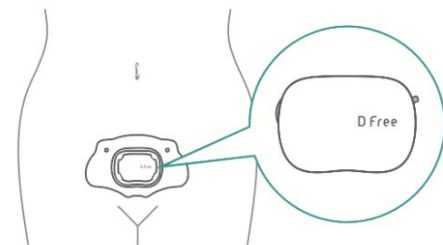
恥骨を探す



装着用シートを
体に貼り付ける



DFree にジェルを塗る



DFree を装着用
シートにはめる

専用装着用シート



【3-5回繰り返し使用可能！】



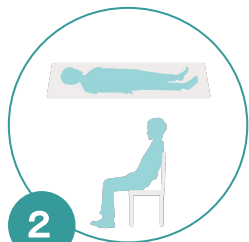
慣れてくれば
市販のテープでも代用可能

今どれくらい溜まっているのかがすぐにわかる！



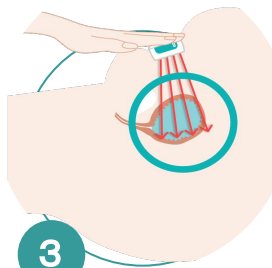
1

気になるタイミングで
お声がけ



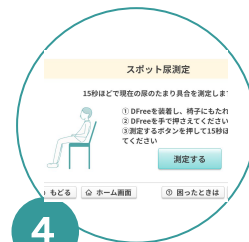
2

仰臥位or座位になる



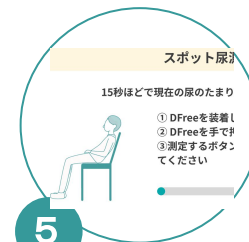
3

DFreeを押さえる



4

スポット尿測定をする



5

15秒ほど待つ



6

数値が高い場合



7

トイレ誘導する



6'

数値が低い場合



7'

トイレをスキップする

グラフで尿の溜まり具合の推移を確認することもできます！



前の画面に戻ることができます

ホーム画面に戻ることができます

1 尿意を認識しづらいお子様のトイレのタイミングがわかる

通知をもとにトイレに行くことで、漏らさずにトイレに行ける！

尿意の意思表示ができないお子様にも！

排尿動作に時間がかかる場合も余裕を持ってトイレに行ける！

2 尿の溜まり具合を確認することでトイレに関する不安を軽減

尿が溜まっていないことを確認して、トイレのことを忘れて生活できる！（家族の負担も軽減）



トイレ排尿率: 増加



おむつパッド使用枚数: 減少



失禁回数: 減少



1

排尿の意思表示が難しい知的障害のある小学生に活用した事例

利用者情報

10歳／女性／肢体不自由(車椅子移動)／知的障がい

事前の課題

普段はオムツに排泄しており、尿意は感じていない様子で、トイレの主張もない

- 発語はないが、指でさして言いたいことを伝え、意思の疎通はできる
- 一日に大体学校で5回、家で3回ほどオムツ交換をしていた

DFree使用方法

自宅や学校で、そろそろ通知や数値を元にトイレ誘導

効果

オムツで濡らすことなく、トイレでの成功が増えた

- DFreeをつけてしばらく排尿の傾向を見て、メーターが4～5くらいまで溜まるとトイレに連れていくようにした
- 家での使用中は、オムツで濡らすことなく、トイレでの成功が増えた
- 学校では、DFreeを使用しない定時誘導で、その際のトイレでの成功率も増えた

尿が溜まったタイミングでトイレに連れていくことによりトイレでの排尿率が大きく上昇（4ヶ月間の成果）

- トイレで排尿できた割合が0％から77％まで上昇
- 1日あたりの平均トイレ排尿回数が0回から2.5回に上昇
- トイレ回数は増えたものの、空振り回数は増えていない
- お漏らし率（おむつに排尿していた割合）が100％から23％に減少

2

排尿の意思表示が難しい知的障害のある小学生に活用した事例

利用者情報	10歳代／男性／ダウン症で重度知的障害
事前の課題	尿意を意思表示することができないため定時トイレ誘導しているが、タイミングがあわず空振りや尿漏れが多い ● 本人に羞恥心がないため、失敗が多い。とはいえ、おむつやパッドではなくなるべく自力排泄をさせてあげたい。 ● 定時で誘導しているため、本人が遊びに夢中になっていてもそれを中断して無理やりトイレに座らせることも多く、空振りもある状況。 ● 親としても四六時中トイレ誘導のことを頭の隅に置いている生活が辛い状況
DFree使用方法	自宅や学校、おでかけ中に、そろそろ通知を元にトイレ誘導
効果	通知をもとにトイレ誘導することで、尿漏れなくトイレで排尿できる回数が増えた！ ● 特に自宅では全くお漏らしすることなく生活することができている ● 通知がなるまでは親も本人もトイレのことを気にせずに生活することができる（子供も遊びに夢中になれる） ● オムツの使用枚数が大幅に減った（オムツによる役所への申請の頻度が下がった） ● 息子本人がトイレ内に拘束されている回数と時間を大幅に削減できた トイレトレーニングにも繋がった！ ● 排尿成功率が高くなったことで、トイレ＝褒められる楽しい場所という認識に変換されてきている ● オムツ頻度が減った結果、かぶれがなくなり本人がパンツを進んで選ぶ姿を見られるようになった

3

体幹機能障害および知的障害がある20代女性での活用事例

利用者情報	10歳代／女性／脳性麻痺による体幹機能障害／知的障害
事前の課題	尿意を意思表示することができず、移動も困難なため、トイレでの排尿はほとんどできない状況 ● トイレで排尿させてあげたいが、トイレへの移動に介助者の負担も大きく、タイミングがわからない状態では難しい状況 ● 過去にトイレトレーニングを実施したこともあったが、介助者の負担も大きく、諦めていた ● ほとんどがおむつ交換、パッド交換のみでの対応となっていた
DFree使用方法	自宅や放課後デイサービスにて、そろそろ通知を元にトイレ誘導
効果	通知が鳴ることで、「自分のトイレの時間」であるという認識が芽生えた！ ● そろそろ通知がなり、黄色くなった画面を見ることで、トイレに行く時間なんだという意識が芽生えた ● 全くトイレで排尿できていなかったが、1日に1回はトイレで排尿が成功できるようになった ● スムーズにトイレ誘導ができるようになること、また、タイミングが合うことにより空振りが減ることで、介助者のトイレ誘導の負担も減少した ● 自宅以外にも放課後デイサービスでも活用することができている

4

自閉症がある6歳男性に活用した事例

利用者情報	6歳／男性／自閉症
事前の課題	尿意を適切に訴えることができず、タイミングが合わないことが多い - 自分からトイレに行くことができず、日中も漏らしてしまうことが多い - 漏らすことをためらって、飲水量を減らしてしまい脱水になることもある - 漏らすことをためらって、我慢しすぎて膀胱が痛くなる（学校にいる間全くトイレに行こうとしない） - 常に颜色を伺いながらトイレの声がけをする必要があった
DFree使用方法	・そろそろ通知を元にトイレの声がけ ・尿の溜まり具合を確認することでケアのタイミングを調整
効果	通知をもとにトイレの声がけをすることで、漏れてしまう回数が減り、我慢しすぎることもなくなった！ ・ DFreeの数値や通知を本人に見せることで、本人が納得感を持ってトイレに行くことができるようになった(DFreeがないと言うことを聞かないことも多い) 尿の溜まり具合が見えることで、必要なタイミングだけ排尿ケアについて考えればよくなった！ ・ これまでは親が常に排尿について気にしなくてはならない生活だったが、尿の溜まり具合が数値で見えることで、必要なタイミングのみ気にすれば良くなった ・ 学校やデイサービスでも同じ尿の溜まり具合の履歴を見ながら排尿ケアについて相談ができるようになった

5

自己導尿をしている20代女性に活用した事例

利用者情報	20歳代／女性／自己導尿
事前の課題	尿意がなく、定時で自己導尿をしているが、タイミングが合わないことが多い ● 自力で尿を排出することができないため、自己導尿をする必要がある ● 尿意がないため時間を決めて自己導尿をしているが、導尿をしても出ないことも多い ● 仕事をしているため、集中してしまうと自己導尿の間隔が開いてしまい、尿を膀胱に溜めすぎてしまう ● 尿を溜めすぎてしまうことによる膀胱炎を繰り返していた
DFree使用方法	・そろそろ通知を元に自己導尿 ・導尿後にスポット尿測定で残尿確認 ・尿の溜まり具合を安心材料として確認
効果	通知をもとに自己導尿することで、適切なタイミングでのみ自己導尿ができるようになった！ ● 尿が溜まったタイミングで自己導尿することができているため、溜めすぎてしまうことが減り、膀胱炎の回数も減少 ● 尿が溜まった時だけ自己導尿できるので、自己導尿しても尿が出ないことがなくなり、導尿回数も減少 ● 膀胱のたまり具合をみることで溜まっていないときは飲水量を増やすなど自身で調整したりしていることで、安心して過ごすことができる。 導尿後にスポット尿測定で残尿確認することで、残尿による感染症の不安を軽減できた！ ● 残尿がないことがわかり、普段の生活の安心感につながっている

6

四肢高度麻痺の20代男性に活用した事例

利用者情報	20歳代／男性／自動車事故による四肢高度麻痺と高次脳機能障害／自立歩行不可
事前の課題	排尿の意思表示が難しく身体も動かせないため、時間を決めて尿器を使っているが、タイミングが合わないことが多い ● 体を動かすことができないため、介助者によるトイレ誘導には多くな負担がかかり、ベッド上で尿器を使っの排尿を試みている ● 尿意を訴えることができないため、尿器をあてるタイミングがつかめず漏れてしまう ● 介助者は常に本人の顔色やお腹の張りなどをうかがいながらケアをする必要があり負担も大きい
DFree使用方法	・ そろそろ通知を元に尿器を使って排尿 ・ 尿の溜まり具合を確認することでケアのタイミングを調整
効果	そろそろ通知をもとに尿器を利用することで、漏れてしまう回数が減った！ ● そろそろ通知のタイミングで尿器をあてると、しっかりと排尿量があることが多い 尿の溜まり具合が見えることで、必要なタイミングだけ排尿ケアについて考えればよくなった！ ● 介助者同士(家族)で、溜まり具合の数値を確認しながら排尿ケアタイミングについてコミュニケーションをとるようになった

DFreeは排尿にお悩みのある、あらゆる方にご活用いただける製品であり、
(障害により、おむつ、尿とりパッド、収尿器、カテーテル (導尿)等をご利用されている方を想定)
以下の「障害」「対象者」の方に日常生活用具給付していただくことをご提案させていただきます。

- 肢体不自由
 - 障害
 - 下肢または体幹
 - 肢体不自由
 - 対象者
 - 排尿動作に時間がかかることで失禁があるもの
 - 肢体不自由等
 - 先天的、後天的いずれも含む
 - 脳原性運動機能障害により排尿の意思表示が困難なもの※
 - 脊椎損傷等により、常時失禁状態にあるもの※
- 膀胱、排尿機能障害
 - 障害
 - 排尿機能障害(ぼうこう機能障害)
 - 対象者
 - 尿意を感じづらいもの
 - 神経因性膀胱等
 - 自立、介護いずれも含む
 - 先天的、後天的いずれも含む
 - 排尿の意思表示が困難なもの
 - 知的障害、発達障害等
 - 先天的、後天的いずれも含む

日常生活用具認定実績あり

種目	対象者	内容	基準額	耐用年数
排泄予測支援機器	・原則として学齢児以上の身体障害者手帳の交付を受けた者（児）で下肢又は体幹、肢体不自由に係る障害1から3級程度のもの ・原則として学齢児以上の身体障害者手帳の交付を受けた者（児）でぼうこう機能障害のもの ・原則として学齢児以上の知的障害者（児）で障害の程度が最重度または重度のもの ・上記の同程度の身体障害者（児）、知的障害者（児）で必要と認められるもの	膀胱内の状態を感知し、尿量を推定するものであって、排尿の機会を本人または介護を行う者に通知するもの	本体 99,000円	5年
			シート等の消耗品 3,080円	2か月

そろそろ通知以外でご利用可能な機能があります！

1 起き上がり通知

- 寝た状態から起き上がったタイミングで通知が鳴ります
- 転倒・転落防止の補助手段としてご利用いただけます



2 でたかも通知

- 尿のたまり具合が低下したタイミングで通知が鳴ります
- パッド交換の目安としてご利用いただけます



DFreeは在宅でも、施設でもご利用いただけます！

個人用

- ・排尿に関してお悩みの個人の方(要介護、障がい、健常者)
- ・22年4月より特定福祉用具として保険適用が可能に
- ・日常生活用具認定に前向きな自治体が複数

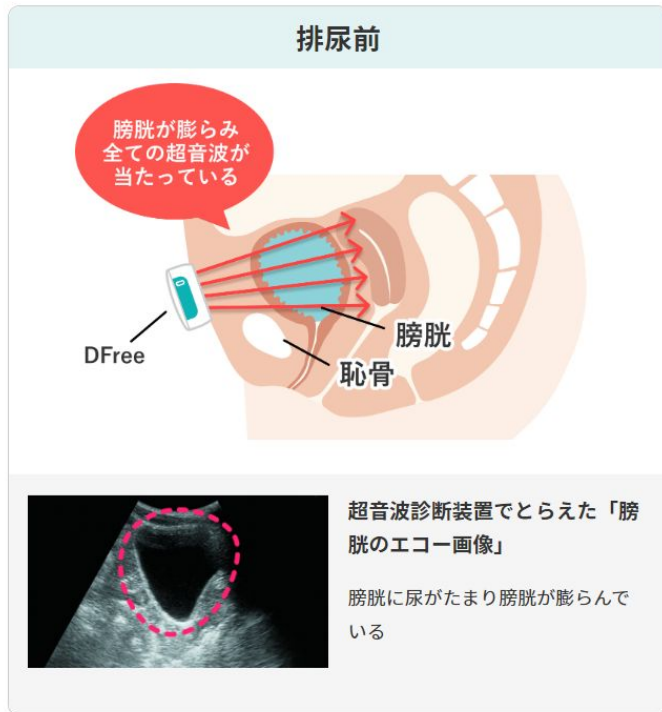


医療・ 介護施設用

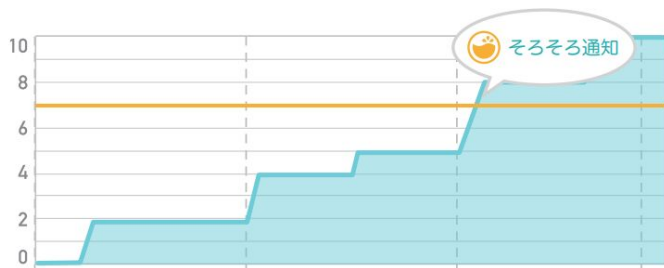
- ・施設内で、複数人の利用者を一括管理
- ・介護ロボット補助金を利用可能



- 伸縮性のある筋肉でできた臓器
- 水風船のように尿がたまると膨らみ、排尿後は収縮する



数値と尿量の目安



数値0: 平均100ml以下

数値3: 平均160ml程度

数値5: 平均240ml程度

数値8: 平均300ml程度

数値10: 平均400ml程度

- ※ 101名における DFreeの数値と尿量値との比較データをもとにした統計
- ※ 個人により数値のばらつきがあるため、1つの目安としてご参照ください